

クリニカル・クエスチョンで考える 外傷整形外科ケーススタディ

土田芳彦・編

評者

善家雄吉

(産業医医科大学病院外傷再建センター部長)

B5判・368頁

2024年3月

定価：11,000円

(本体10,000円＋税10%)

ISBN978-4-260-05321-1

医学書院 刊

クリニカル・クエスチョン
で考える

外傷整形外科
ケーススタディ

編著 | 土田芳彦

治療戦略を
エビデンスから読み解く！
必要なスキルを
ケースから手に入れる！

著者の土田芳彦先生は整形外科界で知らない人はいない著名な先生です。私自身は15年以上前より数多くのセミナーや学会で教を乞うてきました。実際に一緒に働いたことはありませんが、尊敬する先生の代表格です。先生の知的好奇心は際限なく、常に最良の医療を行うために尽力されてこられました。近年はオンラインセミナーの開催に注力され、数多くの会を自ら主催し、事前・事後検討を重要視した「教育」を展開されています。

2021年1月から1年間、北大整形外科後期レジデントを対象にした外傷整形外科のウェブカンファレンスが行われました。これは症例を通して若手の疑問に答えるという形式でしたが、私も時間が許せばオンラインで聴講していました。好評だったことにより、その後「症例と文献に学ぶ外傷整形外科」というオンラインセミナーとして再編されました。このセミナーは、本書の執筆者である佐藤和生、佐藤亮、高田大輔、伊澤雄太の4人の先生たちが「提示症例」に対して解説プレゼンを行い、土田先生がコメントするというとても教育効果の高い素晴らしい企画でした。その内容はオンラインサロンでも討論され、多くの先生が勉強されたことと思います。

本書はその企画の書籍化であり、外傷整形外科の各領域(8章)で構成されています。それぞれの

部位で代表的な症例がほぼ網羅されており、それぞれの「臨床的疑問」に対して文献的考察を述べた後に、臨床家の視点やコラムで語られます。若手のうちは経験が少ないため、教科書や論文から知識を蓄えます。治療の選択に当たっては「根拠」が必要になってきますので、文献は重要な情報源です。一方で、四肢外傷のように多様性に富むものに関しては「現場主義」や「経験主義」に頼らざるを得ない側面も多々あります。

本書は、文献と実践の溝を埋めるようによく考えて作成されている点が斬新であり、内容も素晴らしく洗練されています。それぞれの外傷ごとに、多くの臨床画像やイラスト、文献から引用されたデータやグラフも掲載されているため、ビジュアル的にとても見やすく、容易に理解できるようになっています。また、さらに理解を深めたい場合には、多くの引用文献を掲載してくれている点も志のある者にとっては非常にありがたいことです。随所に土田先生の「臨床家の視点」と「コラム」が散りばめられており、肩肘張らずに読み進めて行くことができるのもうれしいです。

本書は、外傷整形外科が専門の先生のみならず、最近の外傷整形外科をアップデートしたい多くの先生にもぜひ一読をお薦めしたいと思います。